

令和元年度第1回市民が主役のまちづくり事業支援委員会会議録

1. 開催日 令和元年6月15日(土)
2. 時間 午前9時30分から午後3時3分
3. 開催場所 君津市役所 601 会議室
4. 議題 (1) 委員長の選任について
(2) 副委員長の選任について
(3) 平成30年度実施事業の実績について
(4) 2019年度2次募集申請事業の公開プレゼンテーション
(5) 2019年度2次募集申請事業の採択協議
5. 公開又は非公開の別
(1)(2)(3)(4)については、公開。(5)については委員の自由な討論が制限されると認められるため非公開(君津市審議会等の会議の公開に関する規則第4条第1項第2号)。
6. 出席委員 9名
中川 茂治 奈良輪 政五 重田 和士 新田 力男
磯貝 弘一 福村 英俊 齊藤 はる代 藤川 英生
鈴木 富雄
7. 欠席委員 1名
石井 紀美子
8. 出席職員 6名
企画政策部長 安部 吉司
企画政策部次長 鈴木 広夫
まちづくり推進課長 茂木 一也
まちづくり推進課係長 片倉 丈寛
まちづくり推進課主任主事 木原 沙都美
まちづくり推進課主事 東 舜吾
9. 傍聴者 なし

開会(午前9時30分)

事務局 おはようございます。委員の皆さまにおかれましては、ご多用なところ、またあいにくの天気にも関わらずご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日司会を務めさせていただきます、まちづくり推進課長の茂木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお本日は新年度を迎えまして、初めての委員会ということになりますので、はじめに事務局職員のほうを紹介させていただきます。安部部長より紹介をよろしくお願いいたします。

事務局 皆様改めましておはようございます。では私のほうから、職員のほうを紹介させていただければと思います。

—職員紹介—

事務局 ありがとうございます。それでは議事のほうに入る前に、会議資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、事前に送付いたしました、ファイル一冊と、採点表になっております。みなさまよろしいでしょうか。それでは議事進行につきましては、中川副委員長、よろしくお願いいたします。

— 中川副委員長により議事進行 —

中川副委員長 では、改めまして、おはようございます。さっそくですが、委員長不在でございますので、副委員長ということで進めさせていただきます。本日の出席委員は9名ということでございます。従いまして、定足数に達しているということで、これより令和元年度第1回市民が主役のまちづくり事業支援委員会を開催させていただきます。

本日の日程につきましてですけれども、お手元に配布してございます次第に従いまして、進めてまいります。ご了承いただければと思います。

なお、本委員会は、君津市審議会等の会議の公開に関する規則に基づき公開とされております。ですが、本日傍聴者はいないということで、これより議事のほうに移らせていただきます。

議題1「委員長の選任について」

中川副委員長 議題1「委員長の選出について」を議題とさせていただきます。
ご承知のとおり、秋元委員長から平成31年3月31日付けで、辞任願
いが出されたことに伴いまして、委員長が欠員となっております。これ
より、委員長の互選を行わせていただきたいと思います。

委員長の互選につきましては、指名推選、投票、いずれかの方法がある
と思いますが、いかがいたしましょうか。

奈良輪委員 指名推選でお願いいたします。

中川副委員長 今、奈良輪委員から指名推選というご意見がございました。委員長の
互選については、指名推選ということで、ご異議ございませんでしょ
うか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

ありがとうございます。では、異議なしということで進めさせていた
だきます。委員長の互選は指名推選により行います。どなたか委員長
のご指名をお願いします。

奈良輪委員 経験豊富な中川委員にお願いしたいと思います。

中川副委員長 奈良輪委員より委員長に私のほうをとのご発言がございました。これ
について、何かご意見ございますでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

中川委員長 では、そのように決定させていただきます。では、一言ご挨拶をさせ
ていただきます。

— 中川委員長挨拶 —

中川委員長 それではですね、次に副委員長が今の話の中で欠員になったというこ
とでございます。議題のほうに日程を追加して議事を行うということ
でございませぬでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

議題2「副委員長の選任について」

中川委員長 それではこれより、副委員長の互選を行います。副委員長の互選につ
きまして、先ほど同様ですが、指名推選、投票、いずれかの方法がござ
います。いかがいたしましょうか。

奈良輪委員 指名推選でお願いしたいと思います。

中川委員長 では、奈良輪委員から指名推選というご意見がございましたが、副委員長との互選について指名推選で行うということにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

中川委員長 それでは異議がないということで進めさせていただきます。副委員長の互選は指名推選により行います。どなたか副委員長のご指名をお願いいたします。

奈良輪委員 重田委員に副委員長をお願いしたいと思います。

中川委員長 ただいま奈良輪委員から、副委員長に重田委員をとのご発言がございましたがご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

中川委員長 ご異議ないようですので、副委員長に重田委員を選出するというので、決定させていただきます。それでは、ただいま副委員長に選出された重田委員よりご挨拶いただきたいと思います。

— 重田副委員長挨拶 —

中川委員長 ありがとうございます。

議題 3 「平成 30 年度実施事業の実績について」

議題 4 「2019 年度 2 次募集申請事業の公開プレゼンテーション」

中川委員長 それでは議題を進めさせていただきます。「平成 30 年度実施事業の実績について」、事務局から説明をよろしくをお願いします。

事務局 —配布資料にて説明—

中川委員長 ありがとうございます。それでは今事務局から説明がございましたけれども、何かご質問やご確認がございましたら、お願いいたします。

(発言する者なし)

中川委員長 よろしいでしょうか。では、何かございましたら事務局にお問い合わせいただければと思います。無しということで進めさせていただきます。

それでは続いて議題 4 に移らせていただきたいと思います。

中川委員長 議題 4 「2019 年度 2 次募集申請事業の公開プレゼンテーション」ということで、これに関しまして事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 —配布資料にて説明—

中川委員長 今のご説明で、何か確認したいことがございましたら。

議員委員 午後の部になるんですけれども、午後の部の具体的にどこになるかはまたあとからお話したいと思うんですけれども、補助金の要項が今度は未来の担い手がですね、テーマが 31 年度募集要項から新しく支援するというので、今年のテーマから外れて未来の担い手って形になってま

すけれども、対象になる活動がこれからの君津市を担う学生主体の活動ということで、1人だけ市民がいればいいってことで、学生は全部市民って取り扱いになっているんですね。それで、読むと対象になる活動がこれからの君津を担う学生主体の活動っていうのがよくわからない。たぶん君津市の発展に資する活動とか、それを担う学生主体の活動だと思うんですね。あとからまたお話ししたいと思うんですけども、狩猟関係だとか、どうもこれからの君津を担う学生主体の活動っていうのが、どういものなのかよくわからない。そういう点で、ちょっとプレゼンのほうを確認させていただきながらまたやっていきたいと思しますので、そこら辺の視点で質問等をプレゼンの団体のほうにしていきたいなと思っています。

質問というより、着眼点で。ちょっとどうかかっていうのは、さっき事務局のほうで、市民にとって広い活動になっているのかとか、効果があるかとかですね、そういう点から見るとどうなんだろうなっていうのがちょっとあったもんですから、そういう着眼点で見てきたいなと、そういう風に思います。

中川委員長 こういう制度を受けるにあたってそういう心構えは必要かなと思います。関連でもいいので他になにかございましたら。

(発言する者なし)

中川委員長 よろしいでしょうか。事務局からご説明頂いたこと、それから礒貝委員からお話があったことについて、留意したうえでプレゼンに移るということでよろしゅうございますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

事業番号 15

事業名 鹿野山 植栽(樹木と山野草)と遊歩道周辺整備活動

団体名 鹿野山・愛彩の会

プレゼンテーション

中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号15番「鹿野山 植栽(樹木と山野草)と周辺遊歩道整備活動」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体

— 配布資料にて説明 —

質疑応答

- 中川委員長 ありがとうございます。それでは質疑に入りたいと思います。それぞれ質問がありましたらお願いします。
- 議員委員 2015年から活動されているということですね。活動予定は2021年までになっていますけれども、2021年は下草刈りなど維持管理ということで、2021年の途中である程度ゾーンづくりは終わるというふうな形で、あとは下草刈りなどの維持管理が主になるということですのでよろしいでしょうか。
- 団体2 まだまだいろいろやりたい地域の造作とか、仕掛けとか、いわゆるフットパスのようなものも作りたいし、それから最近のドローンみたいなものも取り入れながら皆さんにご案内して、もっと鹿野山に来ていただけるような仕掛けもしたいし、花も5年、10年でもっときれいになっていくし。来ていただくためには安全管理っていうのがね、いわゆる安心してそこを散策していただける。そういういわゆる道路なんかは我々が整備しますが、例えば前も一回ありましたけど、枯れ枝とかは高所の10m、20mの高いところであって、それが落下してくるような、そんなことも。あるいは危険な箇所の物理的な造作とか、そうやってお花がきれいになっているろんな人が来てくれたら、今度はそういう安全面もきちんとした形で充実させていかなきゃいけないと、そういうことを考えています。
- 議員委員 募集要項上は5年で自由企画ですので、恐らく終了ということになると思うんですけども、形を変えて効果があるということで、進めるのかどうか、ここで打ち切るのかどうかということを委員会の中で、話しておこうかと思えますけど、今後も活動は進めていくという形ですね。
- それともう一点、委託料の中にですね、古井戸の柵木ですか。製作っていう形になってますけども、もしこれが危険防止のためだけであればですね、もう少し経費的にも抑えられるんじゃないかなという気はしたんですね。それで、他の活動費にそれを振り分けたほうがよろしいんじゃないかなと思うんですけども。これは地元業者かなにかに原木を支給する工事か何かなんですかね。なにかこれを使う理由っていうのがもしわかったら教えていただけますか。
- 団体2 これについては我々も会議を積み重ねてまして、事務局のほうで会議を積み重ねてますので、石川さんをお願いします。
- 団体3 これは柵木って書いてありますが、ご存知のようにこれが古井戸です。(古井戸の写真提示)

1年前、工事していないときの写真なんですけど、今現在は周りが造成し終わって、水を利用できるかなというところまで来ています。昨年皆さんにイメージ図をお渡ししているかもしれませんが、普通井戸の上にすね木の枠があって、そこで釣瓶を引っ張ったりなんかしたりしていたと思うんですけど、そここのところの枠木をどうしようかということでやっています、地域内に製材設備を持っている業者さんというのがいましたので、そういうところと相談してそれに見合う材木、原材料としては自分のところにあるものを使って、加工しようじゃないかということで、そのへんのところは手を付けましてですね、木を切り倒したり、それをどこか山の下他の業者さんに頼もうと考えたのですが、時間も限られておりますし、下に降ろして製材してまた上に戻してってことであれば、まずはその現地の設備を持っている業者さんをお願いしてみようかということで、やっております。会長、何か補足するところがありますか。

団体1 なぜ古井戸をやるかということで、活用についてですね。昔鹿野山は、神野寺を基準にして上町と下町に分かれていまして、偉い坊さんが来て雨が降って箕を貸してあげたことから、上町は箕輪町と呼ばれていました。下町は関伽井町なんですね。関伽はなんでかということ、その大切な水でお客さんが来た時にはもてなす。そのための井戸だったそうです。その井戸まで私たち地元の間人は水汲みをして、その水が生活用水だったわけです。そんなようなところからこの水を大切に保存整備して、というのも大事なことじゃないかなと。そしてこの水がまた、勉強してうまく活用できるような方向に持っていければいいかなと。その意味があつての井戸の整備活用の仕方になります。

新田委員 二点ほどお伺いしますが、協賛金を毎年30万程度集められていますけれども、失礼ですけどその協賛金の内訳っていうのは個人なのか、企業なのか、その辺を具体的に教えていただきたいということと。それから委託料の中で古木のパンフレットデザインというものがございまして、これはどういった内容なのか、あえて委託する必要があつたのかどうなのか、その辺について二点ほどお伺いしたいなと思います。

団体3 巨樹古木マップというデザインとなっておりますけど、これをですね20本ほどあの地域に素晴らしい古木がありますので、それを外から来た人にちゃんと見られるような形に仕立て上げよう。それを何かの形で不特定多数の方の手に入るようなパンフレットのようなものを用意しよう。そういう形でお渡ししよう。これは今我々素人で作っているものなんですけれど、これをネタにしまして、専門業者に、それこそさっきの

ドローンなんですけど、春夏秋冬どの季節にこの木が一番いい顔しているかというのありましようから、そういったものを作ってもらおうというお金なんですわ。

協賛金は、いくつかの団体さん。それからもうひとつは個人で我々の活動にということでいただくこともございました。それをまとめるとこの金額です。

新田委員 それは毎年同じ会社並びに同じ方。

団体3 会社としては同じですね。

新田委員 だいたい同じ。

団体3 はい。

新田委員 ありがとうございます。

中川委員長 よろしいでしょうか。他にございますか。

藤川委員 会長のご挨拶の中にあつたかと思うんですけど、昔のにぎわいを鹿野山の中心に。いろんな方から聞いているんですけども、どういうにぎわいのある鹿野山だったんですか。

団体1 鹿野山自体が寺を中心とした宿場町でして、当初はいろんな人たちが下から来て狩猟をする、そういうふうなにぎわい方が多かったと。旅館が30軒、40軒と昔はあつたとかそういう話は聞いています。古いあれを見るとね、書いてありました。

藤川委員 それをどのへんまで会長としては愛彩の会を中心とした活動で、持っていきたいのですか。

団体1 そうですね。すぐってわけにはなかなかいかないと思いますけど、神野寺の今の御前のその前の御前さんがにぎやかにしたいってことで紅葉を植えてくれました。その紅葉が40年目にしてNHKでなんかの放送をしたときにバックで映って、それから一気にこの5、6年紅葉を見る観光客が一気に増えました。

それを引き継ぎながら私たちも10年、30年地道にコツコツやっければいつか昔のようなにぎわいを取り戻せるんじゃないかなと。ただ古い神野寺とか九十九谷の景観だけじゃなかなかお客さんが集まってくれない部分もあるから、そこら辺を四季折々そういう植物たちと言いますか、花木類を植えて、にぎやかにしていったらどうかなというふうな考え方。基本的にこれがベースになってこういう活動をしています。

中川委員長 それではお時間でございますので。

鈴木委員 一つだけいいですか。さっきの井戸なんですけど、飲料用にするということでしたが、水質検査とかはなさっているんですか。単なるオブジェとかではなく、実際に汲ませるということですよ。

- 団体1 前に祭りの再生委員会というものがあつたんですけども、その時に井戸の水質検査を一回しております。それは具体的に使う使わないは別に、ともかくそれをしてみようということで検査をしたことはあります。
- 鈴木委員 飲めることは飲めるんですか。
- 団体1 水質はいいそうです。
- 団体2 現状は非適合です。現状は。
- 団体1 あんまりいっぱい出ないんです。昔は大きな樹木があつたために相当水力があつたから出てたんですけど、今は汲めば少し出るくらい。
- 鈴木委員 わかりました。
- 重田委員 所有者だけ教えてください。井戸の。
- 団体1 土地自体は神野寺さんの。私たちの活動しているところはほとんど神野寺さん。そして上町は上町で井戸があつて、下町は下町のそれぞれの集落の人たちが使っている。多分地主は全て神野寺なんじゃないかなと思います。
- 中川委員長 お時間ですのでこれで質疑を終わりたいと思います。ありがとうございました。

事業番号 17

事業名 AOBふるさと活性化大作戦Ⅳ

団体名 久留里線委員会

プレゼンテーション

- 中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号17番「AOBふるさと活性化大作戦Ⅳ」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

- 団体 — 配布資料にて説明 —

質疑応答

- 中川委員長 ありがとうございました。それでは、質疑に入らせていただきたいと思います。各委員の皆さまから質問等ございますか。
- 齊藤委員 私も小櫃なので、久留里線沿線に学校があるのは存じております。ヒガンバナを選んだ理由はなんでしょうか。それとヒガンバナは学校で球根を作っているんですか。
- 団体1 ヒガンバナを選んだ理由は、ヒガンバナの名所というのはあまり聞い

たことがないので、久留里線沿線地域をヒガンバナの名所にしたいと思ったので、ヒガンバナを選びました。

齊藤委員 わかりました。学校でも、青葉高校ってたくさん作ってますよね。お花を。それでヒガンバナを作っているということ。

団体1 ヒガンバナは作っておりません。

齊藤委員 そうですか。研究ができるといいね。

団体1 はい。ありがとうございます。

中川委員長 他にございませんでしょうか。

福村委員 昨年駅のクリーンアップ作戦にね、視察で見学させてもらったの。いろんな、和気あいあいとね。その時君津高校から来て、一緒にやっておられましてね。JRの方も本当に感謝して、いい雰囲気だったんですけどね。青葉高校ってのは、各学科が非常に地域密着でね、いろいろやっておられて、本当にこういう学科が地域と連携して、そういう活動をされて、地域の皆さんから愛されるというのは本当に素晴らしい活動だと思います。ただ私一つ思うのはね、小湊鐵道はよくテレビに出るの。だけど久留里線は出ないの。だけど周辺の景色とか産業とかその辺は負けないものがあると思うんですよね。だからそういうのをね、さらに目指してやって頂けるといのは、非常にありがたい。今度は少し目玉を加えられるんですね。ヒガンバナとか。その辺をもうちょっと強調して、どの辺を目玉にしたいとか。今の説明だと総花的な説明にちょっと聞こえたんですけども。もうちょっと強調したい点を教えていただけたらと思います。あんまり深く考えなくていいですよ。これを言いたいなというのがあればと思ったんですけども。

団体1 まずはヒガンバナだけなんですけど、うまくいけば四季折々の花などをどんどん植えていきたいなと思っています。

福村委員 分かりました。ありがとうございます。そこからね、やっていってください。

礒貝委員 ヒガンバナは多年草で、咲いている期間も長いですし、たぶん管理もしやすいだろうと思いますし、いいかなと思います。去年はクリーンアップ作戦に君津高校の生徒さんも参加されたということで、何人くらい参加されたんですか。

団体2 10名くらいです。

礒貝委員 そうですか。今回収支予算書のほうを見ると、飲み物クリーンアップ作戦80人って書いてありますが、これは青葉の生徒さんと、他からの生徒さんの分もですか。

団体1 他校の生徒の分も。はい。

議員委員 他校の生徒の分も。それで交通費ってのはやっぱり木更津から参加される方が来ているんですか。木更津駅からの方なんですか。

団体1 はい。

議員委員 それでこれ、保険に入っているんですよ。なにか参加した時に、ボランティア、クリーンアップ作戦とか参加された方とかが、例えばケガをしたとかなんか、そういう時は保険で補償できる様な形なんですよね。25,000円クリーンアップ作戦用って書いてあるので、それじゃないかなと思うんですけど。というのは、学校の方だけでなく、近くの市民の方で市のほうにお願いして、こういうクリーンアップ作戦をやりますよってことですね、記者クラブとかなんかで事業を取り上げていただければ、もしかすると市民の方も参加してくれるかもわからないんですね。そのときなんかケガした時に、じゃあどうするのってなった時に多分これ保険が傷害保険かなんか入っているかもわかりませんので、なるべく高校生でやっていただけることもありがたいことなんですけど、近くの市民の方にもですね、皆さんやっている中で「じゃあ自分もやってみようかな」っていうところがあれば一層いいのかなと思ったんですけど。なにかあった時の対応としてどうかなと思ったもんですから。ちょっと確認したくて。

団体1 入っていると思います。

議員委員 そうですか。はい。

藤川委員 先ほどのプレゼンテーションの一番最後にね、地域発展の為にとごさいまして、それには三番にも書いてある、君津市を今以上に素敵な街にというふうに書いてありますけど、皆さん方は君津市をどういう街にしたいと思っているんですか。

団体1 とても自然が豊かなので、その自然の緑にヒガンバナなどのきれいな花などを植えて、さらに美しくしていければと思います。

藤川委員 それ以外には議論はされていませんか。

団体1 観光客などを増やしていければと思っています。

藤川委員 そうですか。それからね、もう一点。事業視察に私も行ったんですけどね、ちょっと寂しいなという感じがしたんですけどもね、地域住民との連携っていうのがね、その思いを防ぐのかなという気がしたんですけどね。私は各地を旅行しているんですけども、わたらせ渓谷鉄道っていうのをご存知ですよ。有名な鉄道なんですけど。あそこも清掃活動を地域の方が主体でやっているんですけども、花を植えたりね。皆さんも立派な活動をされているから、何か機会があれば参考にされたらどうかなと思います。以上です。

- 団体1
鈴木委員 ありがとうございます。
- 今の話に関係しているんですけど、私は地元が久留里なので、商店街の振興組合の責任者やっていますんで、なにかそういう話がありましたら声かけてくれれば、協力できることがあればやりますんで、遠慮なしに声かけてくれれば対応しますので。一緒に盛り上げていければと思いますので。
- 団体1
新田委員 ありがとうございます。
- この事業を実施するにあたって、校内で準備委員会か何かを設けて、それでいろんな会議をやってきたと思うんですけど。どういうメンバーで、何回くらいの会議をやった結果として、なぜ一回だけの活動日数なのかということ、それに至った経緯をですね、ぜひお聞かせ願えますか。
- 団体1
新田委員
福村委員 柏友会や各クラスの代表と会議をして、部活などが出れるのが月1回です。月1回ということを決めました。
- はい。ありがとうございます。
- ちょっともう一つ。これは先生にお伺いしたいんですけど、教科外でこの事業は行うんですか。授業内で、悪い影響というか時間がとられてしまって影響があるとか、そういうことはないんでしょうか。かえって相乗効果はいいんでしょうか。
- 団体3
福村委員 活動すること自体は授業外の時間帯になると思います。でもこういう形で君津市の皆様に支えていただいて、生徒がそういう社会性を持って活動するということは、またそれがヒガンバナの赤いラインになって、ずっと久留里線沿線に残れば、卒業後にも誇らしいと思うことができると思いますし。また、どんなふうに植えたらいいのかなということ、ヒガンバナということで普段扱っていない物ですので、どんなふうに植えたらいいのかなとは。あまり手間はかからないのかもしれませんが、その時に肥料をどんなふうに混ぜたらいいのかなということで、勉強は深まってくるということで、逆にありがたいことかなと思っております。
- けっこう相乗効果は見込めるということですね。
- 団体3
中川委員長 それはあると思います。
- ありがとうございました。お時間のほうになっております。よろしければプレゼンのほうを終了させていただいてもよろしいでしょうか。それでは、ありがとうございました。

事業番号 18

事業名 上総地域力向上プロジェクト

団体名 千葉県立上総高等学校ボランティアチーム

プレゼンテーション

中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 18 番「上総地域力向上プロジェクト」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

 団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体

— 配布資料にて説明 —

質疑応答

中川委員長 ありがとうございます。それではこれから質疑に移りたいと思います。各委員からご質問等お願いいたします。

藤川委員 今サッカー部員は何人おられるんですか。

団体 はい。こちらに名簿のほうを作らせていただいているんですが、顧問も入れて 47 名なので、42 名になります。

藤川委員 そうですか。講師の費用がかなり発生していると思いますけど、東京都あきる野市から来ていただいていると。地元でそういう講師は調達、調達というか、お願いすることはできなかったのですか。

団体 探してはみたんですが、このコーチの方がすごく評判がいいというか、すごく素晴らしいコーチなので、ちょっとお付き合いもある関係で、わざわざ来て頂けるということで、お話がありましたので、ちょっと交通費はかかってしまいましたが、そのぶん得るものはとても多いと思いで、お願いしております。

 また、昨年度中学校の先生方から、また是非お願いしますということで、お話を頂けているので、お金はかかってしまうところではあるんですが、ここは是非同じコーチでお願いできたらなと思います。

藤川委員 もう一点。ゴールキーパーの教育に焦点を当てておられるようですが、サッカーというのは私もやったことはありますけども、あれは試合をやるのが楽しいんだよね。だから中学生との交流を深めるということであれば、ゴールキーパーの教育だけじゃなくて、お互いに試合をして、楽しむとか。というふうなこともやっておられるでしょうね。

団体 はい。ゴールキーパーのコーチをお願いするきっかけといたしましては、中学校の先生方から、ちょっと特殊なポジションでもあって、指導が

難しいと。また、一番ケガが多いポジションでもありますので、是非専門の方に教えてもらいたいという要望がありまして、こういうコーチを呼ぶことになりました。また、もちろんそのあとに、フィールドプレイヤーも来ているので、高校生と一緒にゲームを。試合形式のゲームを行うということで、毎回やらせてもらっています。

新田委員　　ちょっと何点かお聞きしますが、今ゴールキーパーの話がありましたけど、いわゆるコーチングの広域性から考えてみたときに、ゴールキーパー1人でコーチできる数というのは限界がありますよね。そうするといろんな方々がお見えになって、残りの方っていうのはどうしているのかなっている素朴な疑問があるんです。それで、もっと言えば、いわゆる何故ゴールキーパーだけ。キーパーに限らず、他のフォワードとかそういった選手をね、コーチとなってもらえるような方を、招聘して、いわゆる効率性のある練習をしてみてはどうかという、一つのご提案です。

それから、君高で実施をするということで、上総高校の生徒たちの交通費はあげられてないんですけど、これはいわゆる自費でということですか。

団体　　そうです。

新田委員　　そうですか。なるほど。それとですね、もう一つ。君津高校の子どもたちもこの中に入るわけですよね。

団体　　はい。

新田委員　　これそうしましたら、上総高校の地域力向上プロジェクトではありますが、メンバーの中に君津高校の高校生も入れると、なんていうのかな。組織力というか。いずれ統合される学校の、統合される学校としての事前の円滑に学校統合が進んでいくというような、非常にそういう意味でのアピールにもなるんじゃないかなというふうに感じるんですが。非常に思うところがありましてね。

団体　　すみません。私の資料がわかりづらい資料になってしまって申し訳ないんですが、この会員名簿の中に君津高校の生徒の名前も入れさせていただいています。

新田委員　　入っているんですか。失礼しました。

団体　　すみません。分かりやすく資料を作ればよかったです。申し訳ありません。

藤川委員　　昨年の会員名簿にも君津高校の生徒は入っているんですか。

団体　　はい。入っています。

齊藤委員　　すみません。今の質問なんですが、君津高校との割合は。

- 団体（高尾） 上総高校のサッカー部員の人数はとても少なくなっています。実際には顧問も合わせて9名。それしかこの47名の中に上総高校の生徒は入っていないんですが、中心となって動くのは上総高校生であるようには。主でやらせていただいているのは私でもあるので、上総高校の生徒を中心とということをやっているんですが、先ほどお話にもあったように、統合に向けて同じチームでやらせていただいているので、昨年度に続き名前はこういう形にってしまったんですが、実際はもう同じチームで一緒に活動しているということでご理解いただけたらと思います。
- 齊藤委員 わかりました。
- 福村委員 サッカーのこのレベルを上げるということで、中学の指導者にこういう講習をやられると。それが市全体の子どもたちのサッカーのレベルを上げることにつながっているんで、これ一上総高校の地域活動というよりも、市のスポーツレベルを上げるというかですね、特にサッカーの。そういうのがあると思うんですけどね。それは中学生を対象に指導されるということになっているけども、もっと大きな仕組みに考えておられるのかなと思ったりもしたんですけど。
- 団体 今年度はちょっとそこまで手が回るかどうか分からないんですが、君津高校には教員基礎コースというものもありまして、もう既に小学校に出向いて指導をしているような生徒もいますので、今後中学生に留まらず、小学生の指導だったり、交流だったりというところもできないかと探っているところではあります。
- 福村委員 とにかくやれるところはやろうということですね。
- 団体 はい。
- 福村委員 分かりました。
- 中川委員長 他にございますでしょうか。
- 藤川委員 先ほどの質問とちょっとダブるんですけどね。この君津市内の企業で、サッカーチームを持っているところが、あるんじゃないかと思うんですね。そういうところとの連携をね、何かやられたら、やっぱりそういう企業との何かやるというのは、市にとっても非常にいいことだと思うので、一度お調べになったらどうですかね。日本製鉄のほうであったかどうか記憶があれなんですけどね。一度お調べになったら。誰かやっていると思うんですけどね。
- 団体 はい。ありがとうございます。
- 藤川委員 余計なことを言ってすみません。
- 団体 いえ、とんでもありません。ありがとうございます。
- 中川委員長 他にございますでしょうか。それではこれでプレゼンテーションを終

わらせていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございました。

事業番号 16

事業名 多様な障害の理解を深め、社会から受ける障害者への差別をなくす活動

団体名 ウィズハーモニー

プレゼンテーション

中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 16 番「多様な障害の理解を深め、社会から受ける障害者への差別をなくす活動」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体 — 配布資料にて説明 —

質疑応答

中川委員長 それでは質疑のほうに入らせていただきたいと思います。各委員からご質問等お願いいたします。

福村委員 よろしいですか。昨年参加させていただいて、非常にね、障害者と一緒に連携して、社会に浸透してね、活動されて非常に素晴らしいと思います。この間講演会のほうにね、人数は少なかったけどなんか感動するとか心に残るお話があったのもったいないですね。なんかのイベントとコラボしてやるとか、という感じはしましたね。積極的にそういう活動は支援学校とか、連携して活動したり、素晴らしい活動だと思います。

団体 そうですね。はい。ありがとうございます。

中川委員長 他にございますでしょうか。

議員委員 はい。事業 3 年目とお話しされていましたが、2016 年度からですか。

団体 そうですね。

議員委員 そうすると 4 年目ですね。16,17,18,19 で。

団体 そうですね。ごめんなさい。

議員委員 この差別の解消の啓発活動ですね。半永続的にやっていかないとなかなか意識は直らないんじゃないかなと思うんですね。5 年で一応補助制度自体はですね、いったんこれ切れるという形になると思うんですね。自由企画ですので。それで補助が、支援が例えばない場合の対応とか、今後どういった形で 6 年目以降、2021 年度以降ですね、どういった形で続けていこうとか。

団体 僕の方針としては、僕も正直言ってこれだけでやっているわけではない、と言ったらあれですけど、できればこれは行政のほうに移行していただければ。アート展とかそういうのは行政のほうに移行していただければいいと思うし、あと話は変わりますが、スモークフリーキッズの方もやってたんですけど、あれは最後議会の方で通していただいて。通したのは僕じゃないですけど。まあひとつコチニンの測定は議会の方でやるようになったみたいなので。要するに議会の方も最終的には働きかけていただいて、何か、まだ決めてないですけど、なにか形に残ればと思っておりますけど、議会の方で。補助制度を設けるだとか、そういうふうに思っているんですけど、全然考えてもいないです予定の方は。

議員委員 それで実際に 2016 年度から活動されていて、たぶん事業、講演会とか私も参加させていただいたんですけども、アンケート調査されたりとか、他にもいろんな形でアンケート調査とかやっている場合もあると思いますけど、実際勝見さんが感じている中でですね、どこで意識が変わったかは非常に難しい話だと思いますけど、勝見さんがやった中でですね、どういったところで啓発活動をやって、市民の方は変わった部分があるよとかですね、なにかそういう感じていることとかはございますか。

団体 結局、感じているかと言われると僕もまだわからないんですけど、ただ、目玉として音楽は人が集まるという。そういう分析はできているんですよ。音楽は集まる。それで、講演会とかそういうのはちょっと集まらないとかそういうのはあるんですけど、最終的には僕としてはただ楽しく来てもらっても困るというはあるんですよ。少しはちょっと来た人は考えてもらって、ただ楽しかったで終わっているのはまずいと思っているんですよ。今年の音楽会に関しては、まず来ないとどうにもならないので、少しこういう方向性を考えるような気持ちを持つようなことをやっていこうかなとは思っているんですけど。市民の方に。ただ楽しむんじゃないで、自分から行動していくっていうことはそういうことなんじゃないんですかね。行動していくってことをアピールしたい気持ちはあるんですけど、今の時点ではちょっとまだ無理だと思いますね。突然言ったとしても、何言ってんだで終わってしまう。

議員委員 どの年代の人でやるのがいいのか分からないんですけど、例えば学校教育とのですね、連携ですとか、学校教育の中にもしかすると、生涯教育とか道徳教育とかあるかと思うんですね。そういう中で何らかの形で連携が取れるのであれば、そういう形での働きかけですとか、協力を要請されてもいいのかなと私思ったんですけど。

団体 それが一番いいと思います。僕も学校教育は、一番、それも子どもにア

ピールするのが。もう大人は難しいっていうのははっきりしてる。はっきり言うと大人は難しい。子どもにアピールするのは一番良い方法だと思います。だからその企画を、もちろん僕の方から学校の方に持っていくべきなのかもしれないですけど、市の方からも学校にそういう企画を持って行っていただければ、僕の方は、もちろん何か新しい子どもにアピールできる方法を用意していかせていただければと思います。もちろん対象者を子どもにするっていうのは一番いいと思います。それも続ければ、スモークフリーキッズも続けて禁煙ポスターアート展というのをやっているんですけど、5年間やって、四市でやって。あれを続けていけば、たぶん卒業生がどんどんどんどん大人になっていけば、タバコ吸わないとか、なるんじゃないかなと。

藤川委員

メンバーの中に、安田享平さんが入っておられますよね。

団体

はい。入っています。

藤川委員

この方は障がい者の伴走をして、走っておられましたよね。

団体

はい。今も走っています。

藤川委員

彼をうまく引っ張り出してね、来年のオリンピックの前の、話をしたらみんな来るんじゃないですか。

団体

もちろん面識もあってこの間も会っているので、ただちょっと1回スポーツの方を1回最初の時にやった時があるんですけど、スペシャルオリンピック走というのがあって。もちろんそれも目玉にできればね、それは可能だと思うんですけど。

藤川委員

ちょうど来年がオリンピック・パラリンピックの年で各地区でいろいろやってますでしょ。だからその辺をうまくちゃんと安田さんはやってくれると思うんですけど。

団体

検討してみます。

藤川委員

前見たときにジャンパーをね、オリンピックの、着てマラソンの指導を我々にしてくれたけどね、障がい者の伴走をやって出たんだからね、それをうまく会長が声かけて参加してもらえたらいいんじゃないかな。

団体

検討してみます。ありがとうございます。

中川委員長

他にございますでしょうか。

では、一点だけよろしいですか。18人のメンバーの皆さんで、団体の協力をされていると思うんですけど、今回いろんな事業をやっていくにあたって、この皆さんでいろいろ話し合いをしたりされたりっていうのは、どうなんですか。

団体

実質18人で活動することはないんですが、アート展に関しては君津特別支援学校と組んでやっているという感じになっています。音楽会はま

たちちょっと別で、あれも関係はしているんですけど、君津特別支援学校と。あれはまたちょっと別のメンバーでやるという。もちろん本当は全員で一丸となってやれば良いと思うんですけど、なかなか仕事があって、という言い訳になるかもしれませんが、なにしろ会議とかには僕も時間が取れない、というか取られたくないっていう気持ちはあるかもしれないですけど。

中川委員長 お忙しいということで。でも時間をとってみなさんでやられているということで、そういう理解でよろしいですか。

団体 はい。大丈夫です。

中川委員長 分かりました。ありがとうございました。

新田委員 ちょっとよろしいですか。参加者の件なんですけど。こういうふうにしてチラシを 25000 枚配布したり、小冊子等々。啓蒙活動というのは広くやられているという、にもかかわらずなかなか動員が追い付かないという実態があるんですよね。音楽会は別にして。それで動員の在り方について、動員と言ったらいいのか参加者と言ったらいいのか、そういう方を増やすにはどうしたらいいかということをおね、考えてみたときに、例えばですよ。市のバスを活用するとか、そういった視点で、主管の部と連携を取りながら、そういったことをするというのは考えていかれるつもりはないでしょうか。

団体 まず、25000 枚は去年はやってないです。あくまで 6000 部しかやってないです。君津市しかやってなくて。今年は申請してますけど。ですから、ちょっと今はまだ検討してないっていう形になるんですけど。それが上手くいくかどうかはちょっと僕も答えづらいんですよ。25000 部っていうのは四市の人数で、小中学生全部ってことなんですけど、その辺まだちょっと育てないような気がするんで、成功している部分もあると思うので、何か方法があればね、聞きたい気はするんですけど。

ただ、僕の狙いはただ楽しいだけの講演会にしたいわけではないっていう意図はあるんですね。ちょっと重いつていうか、内容がね。

新田委員 あれは何年前でしたっけ。有森裕子さんを講師に迎えて。あれもね、本当にもったいなくて、こういうのはね、多くの、1 人でも多くの子ども達に、聞かせてやりたいなって、当時私は思ったんですけど。だからそういう意味で、工夫をもう少しできたらと思ったんですけど。

団体 だから子どもは僕もメインに置きたいと思っているんですよ。正直言うと大人は諦めているところがあるんですよ。だけども子どもも育てていけば、いずれは大人になるじゃないですか。だからそこをもう変な話種をまいている。そんな段階をメインにして、言いたいこと言って申し

訳ないんですけど、僕も効率をちょっとやっぱり考えちゃうんですね。効率よくやろうとすると、やっぱり子どもかなと思っちゃうんですね。だからもう本当に子どものいい方法があるなら、僕も教えて頂けるなら、どんどん取り入れていこうと思ってますし、何かそちらの方からね、働きかけていただけるのならね、学校の方に校長先生とかに働きかけていただけるのであれば、それはもうありがたいと思っているんですね。

僕分かったことは今回そこなんですよ。スモークフリーキッズもやって分かったことは、もう子どもだなと、つくづく思う。ポスターは集まるし、禁煙ポスター。それはもう本当に。僕が経験した中で、言えることはそれですよ。子どもはすごいということ。

福村委員 最後がいいですか。勝見さんはこういう運動に目覚められたのはどうしてですか。

団体 タバコは別に他市の先生がやってたんですよ。それで声をかけられた。それで効率よくやる方法を僕が考えたら、子どもをターゲットにしてスモークフリーキッズという名前になったんですよ。障がい者の方は君津特別支援学校の校医をやっているということが一つと、もう一つは育成会の方に関係していたこととかということですね。まあそういうことですね。だから全く突然やったということではなくて、少し勉強してからということですね。

中川委員長 特になければ時間ですのでここで終わりとさせていただきます。よろしいでしょうか。では、ありがとうございました。

事業番号 19

事業名 きみつキラキラ大作戦

団体名 君津青年経営研究会

プレゼンテーション

中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 19 番「きみつキラキラ大作戦」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体 — 配布資料にて説明 —

質疑応答

中川委員長 ありがとうございました。それでは質疑の方に移りたいと思います。

各委員から質疑をお願いいたします。

新田委員 君特の子どもたちが現状、清掃しているわけですね。その延長線で青年経営研究会の方が、掃除をされる。掃除をされるときには合同でやられるんですか。

団体1 合同で、一緒に。私たちもやりますし、学校の先生もやられますし、生徒さんもやられます。あと先ほど事業交流会と申し上げましたが、そこで知り合った会社さんにも来ていただいたりとか、前回ですと市内のグループホームさんですね、そこの方が利用者さんと一緒に来ていただいたりとかはあります。総勢20名前後の清掃活動になります。

新田委員 それで、駅舎の窓も高い部分も結構あるんですけど、そういった意味での安全について、どういったところに気を付けて作業をされるのか、その辺をちょっと教えていただけますか。

団体1 まず今までですと、君津駅の連絡通路の上の高いところの窓があるんですが、そこについては延長式のモップで、下から立って清掃することで下の人の安全確保をしながら、必ず2人以上でやっています。1人で掃除するといったことはやらず、必ず先生もしくは私たちといった、一般の健常者の大人が付き添う形で清掃を行います。それからこの費用の中にですね、ガラスワイパーとか壁面ブラシとかあるんですけど、この高さも十分地面に立ちながらの作業になりますので、特に梯子に登るとかは考えていません。かつ2人作業にすることで、周囲の方の、逆に一般の方に影響を与えないようにそういったところもしっかりと考えています。

新田委員 ありがとうございます。

中川委員長 他に何かございますでしょうか。

福村委員 よろしいですか。君津青年経営研究会というのは、これは新しい事業をおこされた方で結成しておられると。かずさJC（かずさ青年会議所）とは違うんですか。

団体1 違います。特徴としては、入られる方は何名かかぶっている方はおられるんですけど、親会のない柔軟性のある組織として長く。

福村委員 若い経営者の方が。

団体1 そうですね。集まって会社以外でこういうことをしたいですとか。もしくは、経営の二番手の方、これから経営者になるという方が、勉強をしに入ってくるというケースもあります。

福村委員 経営問題だけでなく、そういう団体の社会活動としてやられているということですね。

団体1 そうですね。やっぱり君津市内で事業をやっていくにあたって、自分

のところの経営だけでは問題もありますので、全体を知るという意味で、観光協会さんですとか、商工会議所さんともお付き合いさせていただきながらですね、視野を広げる活動として。

福村委員 君津特別支援学校と連携して、社会事業をやられています。

団体1 そうですね。彼らの雇用といったところも考えていかなければいけないと思いますので。

福村委員 君津青年経営研究会が、全体が支援されるというわけでもないんですよ。全面的に支援してくれるんですか。

団体1 キラキラ大作戦自体はそうですね。君特さんと本当に密に、一緒に。

福村委員 いやいや、素晴らしい事業ですね。

団体1 ありがとうございます。

議員委員 よろしいですか。支出の内訳の中にですね、ちょっと入っていないんですけど、傷害保険で、参加者が何らかの形でケガをされたりとか、今回他の事業で傷害保険に入られているところあるんですよ。清掃とか。そこはお考えにならなかったのですか。

団体1 学校の関係者については、学校側で保険に入っているんですね。その他ほかの参加者については少人数ということなので、そこは考えてないんですけど、実際これが増えてきたら考えないといけないとは思っています。

議員委員 これを通じて一般市民の方が一緒に掃除したいという方がもしかしたら出てくるかもわからないですね。そういう方に対して、そんなに保険は高額ではないのです。

団体1 確かにそうですね。将来、今回の支援では商工会議所さんの PR だけなんですけど、今後一般市民の方に広げる際には、保険も十分検討したいと思っています。大事なことですので、ありがとうございます。

新田委員 横断幕を用いてどこかに掲示するような形になるんと思うんですけど、横断幕はどういう名称になるんですか。

団体1 内容としましては、「君津特別支援学校と君津青年経営研究会のきみつキラキラ大作戦」という言葉も書くんですけど、実際のデザインについては、君特の生徒さんですごくデザインの好きな生徒さんがいらっしゃいますので、その方に考えてもらって、ビブスの絵もなんですけど、そういった子どもたちにデザインから入ってもらって、中にはデザインは得意けども、掃除は苦手という子もいますので、なるべく学生さんが参加できるような、そういう意味で君特さんをお願いして一緒に作ろうと思っています。

新田委員 はい。ありがとうございました。

- 福村委員 外壁ブラシってありますけど、これ外壁も子どもたちにやらせるっていうのはちょっと危険じゃないですか。
- 団体1 最初の一回試しにということで一緒に様子を見ながらやり、ちょっと無理があれば次からは大人たちがここをやる。子どもたちは内側を、大人たちは外側を、っていうのはやっぱり分担を考えなければいけないですね。
- 福村委員 そうですよ。掃除をされるっていうのはこの事業の中で決まっていますからね。
- 団体1 子どもたちがケガをしたらやっぱり大変なので。
- 福村委員 プロにね、こういうのはやっぱりプロに委託するとか、どうしても必要ならね。
- 団体1 ちょっと拭くだけできれいになるんですが、どうしても君津駅ってそんなに清掃がされてる駅っていうイメージではないんですね。今回事業をやるにあたって、木更津、袖ヶ浦、いろんな駅を見たんですけど、失礼なところ一番汚いですよね。
- 福村委員 通路も長いですしね。
- 団体1 長い長い。内側だけじゃなくて、外側も拭かないとちょっと。
- 新田委員 いいですか、ちょっと。これ駅舎の管理元は管理課ですか。市役所の。
- 団体2 一応君津駅の通路の部分に関しては管理課で、その下に降りたトイレの方も管理課で。
- 新田委員 そうですよ。それで、管理課さんの方にはこの事業内容について、説明は事前にもうされているんですか。
- 団体2 はい。キラキラ大作戦を一番最初に始めるときに、まず勝手に掃除はできないと思ったので、市役所の方に聞いて、そしたら管理課の方になりますと聞いたので、管理課の方に出向きまして、お話をさせていただいて、管理課の方からシルバーさんもいるので、一緒にトイレとかもやってみていいのではないかなって、管理課さんの協力のもとやらせていただきました。
- 新田委員 先ほど掃除の仕方についてちょっと私の質問した時の答えと、それから先ほどの質問の時の答えがちょっと違うので、それでどっちが正解なんだろうと思ってるんです。それで、仮に事故が、高所とか掃除するとして事故ってことも考えられますよね。そうすると自己責任っていうのはどこになるんだろうっていうのはあったので、管理課さんと事前にお話しされていて、問題はなさそうなので、そういう認識でよろしいですよ。
- 団体1 そうですね。問題ないという認識は頂いているんですけども、事故が

起きた時のということは、詳しくまだ話はしていないので、そこは改めて管理課さんと相談して。

新田委員 ちょっとね、その辺をきちっとされて、高所作業はしないということにさせていただかないと、またちょっと面倒なことになる懸念があるので。

団体1 ありがとうございます。またそのあたりはきちっとして、はい。行うようにしたいと思います。

藤川委員 地域活性化活動として、君津市民ふれあい祭りとかね、地域のイベント教育とか、活性イベントがあるけど、事業計画には入っていないんですね。これはどういうことなんですか。

団体1 今回の申請書の中にはですか。

藤川委員 はい。

団体1 こちらはあくまでもキラキラ大作戦の資料ですので、青年経営研究会の他の活動については記載してないです。あくまでもこの清掃活動を進めるにあたっての事業計画なので。

藤川委員 そうですか。それじゃあね、君津市民ふれあい祭りではどういう活動をされているんですか。

団体1 ふれあい祭りの活動ですと、日曜日最終日の昼間にヒーローショーがあるかと思うんですけど、そこのヒーローショーのシナリオを考える。去年ですと雷伝丸の演出の中で君津の名産品を取り上げていただくという中で、久留里の水を使った演出を考えるですとか、あとは見た方のお子さんに対するノベルティの配布と、あとはお祭り期間中の清掃活動ですね。そういったことをやっております。

中川委員長 よろしいでしょうか。それではお時間の方が来ておりますけれども、次に進ませていただいてもよろしいでしょうか。ありがとうございました。お疲れさまでした。

事業番号 20

事業名 みんなのやまづくりプロジェクト

団体名 早稲田大学学生環境NPO環境ロドリゲスやまなび

プレゼンテーション

中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号 20 番「みんなのやまづくりプロジェクト」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は 10 分、質疑応答が 10 分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

質疑応答

中川委員長 ありがとうございました。ではこれから質疑の方に移ります。各委員
はご質問等ありましたらお願いします。

奈良輪委員 それじゃあ4点ほどお伺いします。まずですね、皆さん鹿野山との関
りはどんなことがスタートですか。

団体 鹿野山とのかかわりに関しましては、2015年ごろに自分たちの先輩
の、今は社会人になっている先輩なんですけど、その方たちと鈴木宗男
さんがコンタクトを取りまして、その時はやまなびという活動ではなく
て、単発の合宿のような形で、君津の鹿野山まで来訪して、それで交流を
持つようになったというのがきっかけです。

奈良輪委員 はい。分かりました。ありがとうございます。関連する質問なんです
が、鹿野山に滞在する日数というのはどのくらい。

団体 そうですね。基本的に一泊二日のイベントを年に3回行って、二泊三
日のイベントを2回行っているの、しめて一週間から10日ほどになる
と思います。

奈良輪委員 10日ぐらいですね。

団体 はい。

奈良輪委員 もう一つはですね。東京都で、都内でのいろいろな活動をされて、鹿野
山のアピールしていただいているようですが、その成果っていうのは何
かわかりますかね。去年も同じような質問をさせていただいたと思うん
ですよ。

団体 はい。今年には都内でやまなびがというよりは、ロドリゲス全体で年に1
回行っている総会というか、報告会のようなイベントがありまして、そ
ちらにお越しいただいた関東のオリンピックに関連してボランティア
等々、いろいろ行おうというおりがみ(学生団体おりがみ)という団体か
ら、是非合宿を合同で行いたいということで、今年の10月頃に合同で合
宿を行うことを予定しています。

奈良輪委員 それは鹿野山で一緒に合同でやられるわけですよ。

団体 はい。

奈良輪委員 その事業というのは、だいたい皆さんに周知していますか。

団体 おりがみの方でまだ日程の調整が、オリンピック関連なので、また忙
しくなってくるようなので、10月のまだ細かいところまでは詰めてない
んですけども、だいたい5、6人から10人程度お越しいただくというよ
うな話を伺っています。

奈良輪委員 それともう一点が、現地で活動する土地ですよ。山。その持ち主はどちらですか。

団体 一応鈴木宗男さんということで、話は伺っています。

奈良輪委員 鈴木宗男さんの持山。

団体 山全体ではなかったと。一応、すみません、ちょっと記憶が曖昧なんですけど、鈴木宗男さんが管理してらっしゃる部分と、そもそも市の持ち物になっている部分両方で行っています。

奈良輪委員 何かあった場合の責任というのは一応お宅の方の団体で持てるというわけですね。

団体 はい。

奈良輪委員 分かりました。

新田委員 ちょっと私も何点かお聞きしますけど、費用の半分以上が、レンタカーの費用になっていますけど、それでこのレンタカーで、1回あたり5人くらい乗られるんですかね。1回あたり。このW1というので。何人乗れるんですか。

団体 W1はこれは7人乗りになっています。はい。

新田委員 7人乗り。7人乗りだとすると、10回で70人。そういう勘定でよろしいわけですね。

団体 そうですね。途中ピストン輸送してもっと運ぶこともあるんですけど、基本的には延べ80人から100人くらい。

新田委員 そうですか。わかりました。それで、そういった方々がおいでになって、それで弁当代はこれ入っていないんだけど、いわゆるその食糧費というのは、基本的には鹿野山に入るといことは、肉体労働がメインですよ。それで食糧費となる弁当代というのは要請、要求していないっていうのはどういう理由なんですかね。

団体 弁当代なんですけども、水は食糧費のほうに含めて請求してまして、弁当は自分たちで自炊することを活動の目玉の一つにしていますので。

新田委員 どこで自炊するの。

団体 ちょっと画像が暗くて分かりにくいと思うんですが、活動地域で普段寝泊まりをする場所として、古民家を借りておまして、その古民家の中にキッチンも備わっていますので、その中で自炊を行っています。

新田委員 なるほど。

藤川委員 この古民家はこの活動する場所のすぐ近くですね。

団体 そうですね。宗男さんの家とちょうど森を挟んで反対のところに古民家があって、そこで自分たちで協力して寝泊まりしています。

新田委員 それと最後にね、講師謝礼として30,000円を5回、支払いをしている

んですけど、この講師というのは、どういった内容の講師なのか。そしてこの方、この講師は固定になるんですか。

団体 基本的には鈴木宗男さんということになっていまして、新入生が来たタイミングとかですと、その他の人も行ったりという感じです。

新田委員 じゃあその鈴木さんを講師にして、いわゆるそういった指導を受けながらいろんな整備を行っていくと、こういう理解でよろしいわけね。

団体 はい。

新田委員 はい。分かりました。

藤川委員 10月に商店街のイベントとなっているんですけど、去年やられてね、どういう地元の商店街から反応があったか。それから我々君津市に対してどのような効果が出てくるのか。そのへんはどうですか。

団体 基本的には君津での里山の活動を通じて、里山のそれ自体の魅力を発信するというのが一つと。君津という土地が非常に東京からアクセスのいい土地ですので、手軽に行けて、里山について学べて、その他の観光地としての魅力もあると発信しております。

藤川委員 それで皆さん、商店街に来られた皆さんからの反応はどうなんですか。君津はいいところだなとか。

団体 基本的には大人よりも子どもの方が来訪者として多かったので、商店街の方からというより子どもからの反応は非常に良いものでした。

福村委員 主催する早稲田の学生さんがね、君津の鹿野山をフィールドにしてね。そういう里山活動を、学習及び活動をされるということですよ。非常にこれはありがたいと思うんだけど、私、鹿野山・愛彩の会の会員なもんですから、連携してね、重い仕事とかはみんなにやってもらったりしてね、鈴木さんを中心に。植栽とか草刈とかは私らの方でやって、連携してやっているんですけどもそういう意味ではね、コラボの効果は出ているのではないかと思うんですけども。ただね、レンタカーでばっと来てね。あそこは古民家は鈴木宗男さんが借りてるんですか。管理は。

団体 鈴木宗男さんが借りているというよりは、他に持ち主の方がいらっしゃるって、その方から宗男さんが委託されて、それでという形になってます。

福村委員 なるほど。そうですか。それから昨年度西早稲田子ども会が鹿野山に来てくれたんですね。何人くらい来てくれたんですか。

団体 西早稲田子ども天国というイベントでして、子ども会ではないです。

福村委員 今年はその方は君津の里山に見学させるとか、我々のあのフットパスとか、巨木の道とか造ってますんでね、そういうところに来てもらうとか、そういうことは可能ですか。

- 団体 今年はとりあえず、東京からというよりは君津の市内に住んでいる子どもたちを呼んで、ある程度イベントを行って、ここでノウハウを蓄積して、それで次回以降に繋げていく。または、余裕があれば2月、3月の春休みの時期に早稲田地域から子どもを呼べたら呼びたいと。そういう形になっています。
- 福村委員 そうですか。いいですね。あとそれから、学生さんだから大学を卒業して、就職されていくんですけど、それぞれの就職された方は全く縁がなくなってあとは後輩がしっかりやれよっていうそういう調子。繋がりには十分あるんですか。
- 団体 そうではなくて、初代の企画長を務めていた塩川さん。ほとんど毎年古民家の方にお越しにいたっていて、今年の3月くらいにも来ていただきました。
- 福村委員 はい。わかりました。
- 中川委員長 レンタカーはいつもどこで借りてるんですか。
- 団体 レンタカーはいつも君津駅のトヨタレンタカーで。
- 中川委員長 ありがとうございます。
- 事務局 先ほど土地は鈴木宗男さんの土地と話の中でありましたが、土地は鈴木宗男さんの土地ではないですね。事務局で事前に調べたところ、土地は神野寺の土地。それともう1人別の方。
- それから報酬ですが、チェーンソーとか下刈りとか、その報酬は宗男さんではないです。市原の馬立の方と君津市西日笠の方にお支払いしています。
- 中川委員長 そうですか。ありがとうございます。それではお時間ですので。お疲れ様でした。

事業番号 21

事業名 狩猟と生きる新しい暮らしづくり

団体名 東京大学狩人の会

プレゼンテーション

中川委員長 それでは時間となりましたので、事業番号21番「狩猟と生きる新しい暮らしづくり」のプレゼンテーションを始めます。発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから事業の説明をお願いします。それでは、よろしくをお願いします。

団体 ー 配布資料にて説明 ー

質疑応答

中川委員長 ありがとうございます。それでは、これから質疑に入りたいと思います。各委員の方からご質問等ありましたらお願いします。

藤川委員 昨年五月祭、それから駒場祭に出店されていますよね。その時の反応、いろいろやられたと思いますので、それをちょっと説明してください。

団体1 文化祭においては君津市がどのように関わっているのかというのを、まず屋台のところに狩人の会の概要を書いてありまして、そこに君津市で活動している。今回使った肉は君津市内で獲れた。今は猟協ですけど、猟協さんですとか、森旧、いのかとといった3つの解体場から仕入れた猪肉・鹿肉を使って販売していますよ。とか。そういう形で広報をしています。

藤川委員 反応はどうでした。

団体1 皆さん比較的好意的な感触を持っていただきまして。「猪肉、鹿肉全然おいしいじゃん」とか、「思っていたよりも硬くなくておいしい」だとか、なかには驚く方もいらっしゃるんですけど、大抵食べていただければおいしいなという好意的な感想を持っていただきました。

藤川委員 君津市に対してね、皆さんの活動を通じてね、どういう魅力があるのかというような質問は。

団体1 君津市への魅力というよりは、中山間地域。主に日本の中山間地域の獣害問題に対する質問ですとか、実際に田舎暮らしをしてみて、田舎暮らしの短所と長所はどういうところだとか、そういうところを質問してくださる方が多かったです。

団体2 それに加えてのお話なんですけど、我々結構今までは、五月祭とか駒場祭とかではソーセージの飲食の屋台を出すことが多かったんですね。ただ、それだけだとお客様も多くいらっしゃるんで、あんまりお話ができなくて、伝えきれてなかった部分もあると思うんですね。ただこれからは屋台を出すことももちろんですが、それとは別に室内にベースを構えて、展示をしようと思っけていまして、そこでですね、詳しくお話をさせていただいたり、また今我々が発表させていただいたように、何故君津市でやるのか、君津市でどんな暮らしをしているのか、そういう細かなところを伝えていく段階に入りたいと考えています。実際今我々活動が3年目とまだ若い団体でして、君津市での活動も2年目になりますので、ちょっと肉、狩猟っていうだけでなく、その暮らし。暮らし全体を伝えるという段階で、五月祭や駒場祭でも活動していければと考えています。

中川委員長 ありがとうございます。他に質問ございますか。

齊藤委員 先ほど見てたら、住まいの方はだいたい終わったので、畑を耕してっ

て言っていましたけれども、そこで何を作るつもりなんでしょう。

団体 2

はい。今実際に作っているのはさつまいも。

団体 1

さつまいもとその時はモロヘイヤの種があったのでモロヘイヤを植えました。

齊藤委員

自分たちの食糧。

団体 1

そうですね。基本的には自分たちの今のところは食糧ですね。まだまだ規模が小さいので、規模が大きくなったら文化祭でも販売できるかなと思っているんですけども。

齊藤委員

それと原材料費。ワイヤーメッシュとか、それは畑の囲いのため。

団体 2

今回申請しているワイヤーメッシュは。箱罾の檻の方ですね。今後はいろんな外部の方も、市内の方とかも呼んで狩猟ツアーをする予定がありまして。その狩猟ツアーをするにあたって、くくり罾だとワイヤーだけで獣が暴れまわって危険なので、そういう時に箱罾があると檻ですし、安全にご案内できるのかなと思っています。

齊藤委員

ありがとうございます。

新田委員

君津に今後住むという予定はあるの。いわゆる学生の間こういった活動をするに止める。その辺はどうなの。

団体 2

そうですね。これは私個人がそうであって、会員が全員そうというわけではないんですけども、私はですね今大学を卒業して、秋から IT 系の企業に入社しようと思ってるんですね。そこでやろうと思っているのが、今 IOT って呼ばれている分野ですね。今まで物でやっていたところに、IT を組み込もうという、情報を組みこもうという分野です。そこで注目されているのが農業だとか、狩猟だとか、やっぱり一次産業の分野なんですね。なのでそこで自分は仕事をしたいなと考えています。実際に自分が農業をするか、専業になるかっていうところは、今のところ可能性としてはないと思います。ですが、その農業のところ、農業とかかわり続ける仕事をしたいなと考えています。だから君津市に住むのかという質問に対する返答なんですけれども、住むかもしれないですし、仕事でかかわっていく。それから君津市みたいところに仕事としてかかわっていく。そういう生き方になるんじゃないかなと思っています。

新田委員

ありがとうございます。

藤川委員

それに関連してなんですけれども、28 番の小宮さん、君津市引っ越し予定なんだけれども。

団体 2

そうですね。それは実際私が今、秋まで入社がないので三か月だけでも今の拠点で生活してみるのも面白いかなと思って。

藤川委員

そうですね。もう一点良いですか。東大千葉演習林との事業協力を検

討されているようですけれど、どのような事業協力ですか。

団体 1

これはまだまだやりたいなと思っている形で、まだ形にはなっていないんですけども、自分なんかもうすぐ研究室配属ですし、3年目にもなって院生で研究されている方も増えてきて、だいぶ教授陣、各演習林にいらっしゃる教授陣とつながりが持ててきたので、そのパイプを使って、まだ演習林内は鳥獣保護区とか、昔からやられている猟師さんとかもいるので、そこの兼ね合いにもなるんですけど、パイプを使ってそちらに挨拶とか、お話をしに行き、演習林内でどういうフィールドが使えるとかそういう把握をしてから、内容を考えていきたいと思っています。

議員委員

二点ほど確認したいんですけども、君津市では鳥獣被害防止計画というのがあると思うんですね。猟友会ですとか、協議会といった団体があります。そこらへんとの連携はどうなっているのかというのが一点と。もう一つ、目的が今回は狩猟の啓蒙活動を行う、新世代に対して啓蒙活動を行うということで、あとは付随活動で解体ですか。罾づくりとか皮なめしと書いてありますけども、都市部の学生を中心に体験してもらうとあるんですね。そちらの方のマイナビ農業ですか、を見たときに、要は人間ってのは生き物を食べてですね、次の世代に、生命の尊厳だとか、そういったことを書いてあったんですけども、市内の中学校、高校とかですね。そういったところに例えば被害の実態だとか、そういうことを私たちは生きているんだとかですね、狩猟の啓蒙活動を行う中で、そういうようなものがもし考えているようであればですね、事業展開をすればより君津市民にですね、効果的になるんじゃないかと思うんですけどね、この辺はどうなんでしょうか。

団体 2

掲載記事までご覧いただきありがとうございます。一つ目の質問に対しては小林から、二つ目の質問に対しては私から答えさせていただきます。

実際に市民の方、君津市内の方に啓蒙活動を行うということについては、我々も是非したいと考えています。ですが、まだちょっと我々、地元の猟師の方とか、市外の方とは交流はあるんですけども、協力関係者の方であったり、それからファミリー世代、中高年の方とあまり交流がなくて、そこにどうアタックしたらよいのか、我々も分かっていない状態なんですね。なのでもし実際にこの会議ですと、パイプを繋いでいただいたら我々も参加していきたいと考えています。その準備もごさいます。では、一つ目に対しては小林から回答いたします。

団体 1

猟友会ですとか、君津の鳥獣対策協議会との関係性ですけども、自分

たちは奥米のすぐそばには森旧解体場さんですとか、元々君津市内で狩猟をやられている方から、ちょっと来てみないという形で、招待されてきまして、今も猟友会さんも協議会さんの方も頻繁に連絡を取り合って、例えば自分たちがたまたま奥米に来て草刈とかしている際に、地元の猟師さんが獣を獲って、捨ててしまうなどになったら、連絡が来て解体の練習に使ってみないかという形で呼ばれてよく行ってみたいですか、自分なんかは鉄砲もやっているのので地元の猟隊に入れていただいて、毎週出猟したりしています。

議員委員

ありがとうございました。

福村委員

東大生の方がね、こんなマニアックなことをね、本気でやられていてね。体制としてはよくわかりました。行政官とかそういうのを考えておられるの。こういう実践をずっとやるつもりじゃないでしょ。天下の東大だから、なんかそういうもっとうこう広がり。

団体 1

自分はずいぶん、第一希望は生態学。野生動物管理学を少し勉強して、才能があれば研究者になりたいと考えていて、才能がなくて競争に負けたら、自分で狩猟関連の企業ですとか、WMO という野生動物の調査会社がありまして、そちらに入社したりして、自分はどちらかという現場が好きなので、山に行っておそらく仕事をしたいなと思っています。

福村委員

そういう学問だけじゃなくて、実践を通してね、そういう活動をされると。その実験というのかな、演習の場として君津の清和地区を使っているというわけですね。

団体 1

そうですね。

福村委員

それはずっと繋がっていくんでしょうか。これだけ会員がおられるわけだけでも、こういう広がりずいぶんあるんでしょうか。

団体 1

東大のどういう繋がりでしょうか。

福村委員

これだけの人がマニアって言うか、入っておられるっていうのはかなりの広がりがあるんでしょう。

団体 1

そうですね。若い世代ではだいぶ狩猟免許取得者も増えていまして、それに伴って、先ほど学生狩猟サミットでも話しましたがけれども、その際に自分が全国の狩猟サークルのネットワークを作った。若い世代の横の繋がりですね。縦の繋がりも比較的にあるんですけども、横の繋がりがないのでそれを作ろうということで、作って連携を取り合ったりもしていて、本当に全国規模で広がっているなという形ではあります。

ただ今の問題としては、免許はみんな取るんですが、免許を取ってから実猟に行くまでがなかなか狩猟者登録とか、昔からやっている猟師さんとの兼ね合いとかもあって、大変なんですけども、自分たちがサーク

ルという形でいろんな学生さんを集めていけると、場所も紹介できるし、値段もみんなで罾とか割り勘で買えば安くなるので、敷居、狩猟への参入するハードルを下げられればなと思っています。

団体 2 今、横の繋がり、全国的な繋がりについてお話しさせていただいたんですけど、それとは別に時系列の繋がり。先の世代にどうやって繋がっていくのかという話なんですけど、今ですね狩人の会は大学生だけでなく、実は最近中学生、15歳の方が入部したんですね。そういうふうに見ても、現在若い世代にも、狩猟にも興味を、こういった発信、私たちの記事を見て、掲載された記事を見て入ってくれていたみたいなんですけど、やっぱりその外部に発信していくということがさらに下の世代に興味を持ってもらうことに繋がると思います。

実際に今狩人の会は学生が30人、正確な数字は忘れてしまったので35人程度。社会人が15人程度と。かなり大規模な団体になって、入会者もどんどん増えています。なのでまだ3年目という若い団体ですが、これからの未来像として狩猟に興味を持っている若者は、実際に、潜在的にはたくさんいると思います。さらに発信していくことで、こういう団体があるんだということで、狩人の会を目指して集まってくると思います。

福村委員 実際の実践の場というか、フィールドとしてこれからもずっと継続して使っていただけるということでしょうか。

団体 2 そうですね。我々も今それを目指して整備を進めているので、実際に我々も今せっかく整備した拠点が正規の拠点であったり、ネットワークもございますので、そういったものがずっと使い続けていけるといいなと思います。

福村委員 ありがとうございます。

団体 1 すみません、先ほど中学生も入っているといたんですけど、中学生は捕獲はできないので基本的には皮なめしと解体だけです。それだけ、はい。

中川委員長 先におっしゃっていたインターネットの関係性というのは今のその年齢層を超えた拡大。拡大を図るというその手段として、今あそこは環境整備がないので、これがあるともものすごいそういう効果が期待できるということで、今回申請しているということで理解してよろしいですか。

団体 2 はい。実際にインターネットがないとできない活動というのはかなりございますし、インターネットを導入することの意義はかなり大きいと思います。

団体 2 すみません。付け加えになるんですけど、今までけっこう我々が発信

されるとなると外部から取材をされて、他の人の目を通して外に発信されることが多いんですよ。でももしインターネットがあれば実際に動画を撮影して、観ている人と直接やり取りをすることができます。なので取材されるということと、自分たちで発信するということは全然意味が違って、インターネット導入の意義があると考えています。

中川委員長 ありがとうございます。時間ですのでこれでプレゼンの方は終了させていただきます。お疲れさまでした。

議題 5 2019 年度 2 次募集申請事業の採択協議（非公開）

閉会(午後 3 時 3 分)